

取扱いの趣旨

当該処置は静止が必須であり、体動が生じる可能性が高い2歳未満の小児に対する実施は困難なことから、算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《令和7年6月30日》

597 間接喉頭鏡下喉頭処置（喉頭注入を含む。）（小児）の算定について

○ 取扱い

- ① 2歳未満の小児に対するJ099間接喉頭鏡下喉頭処置（喉頭注入を含む。）の算定は、原則として認められない。
- ② 3歳以上の小児に対するJ099間接喉頭鏡下喉頭処置（喉頭注入を含む。）の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

間接喉頭鏡は、小さな丸い平面鏡を咽頭に挿入して反射光により喉頭部を観察するものである。間接喉頭鏡下喉頭処置実施時は静止が必須であり、2歳未満の小児は体動が生じる可能性が高く危険を伴うことから、実施は困難と考えられる。

一方、3歳以上の小児は体動が生じることはなく、的確に実施することが可能と考えられる。

以上のことから、J099間接喉頭鏡下喉頭処置（喉頭注入を含む。）の算定について、2歳未満の小児に対する算定は原則として認められず、3歳以上の小児に対する算定は原則として認められると判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 78.73%
- 検証対象都道府県 4

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	埼玉、新潟、東京、佐賀	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	埼玉、東京、新潟	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	新潟、佐賀、埼玉、東京	//

該当件数（全国）	【条件】	2,872件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,261件
検証を必要とする審査	請求どおり	611件

